

「四季・植物」 27 葡萄

学名 Vitis.
ブドウ科の落葉つる性植物
漢名「葡萄」の音読みから。

郷土資料から見た「^{ぶどう}葡萄」のあれこれ

現在「柏崎ぶどう村」の名で親しまれているぶどう園だが、その前身である「鯖石ぶどう園」は昭和32（1957）年に中鯖石村農業振興計画としてスタートした。夏から秋にかけ家族で、あるいは学校の遠足でぶどう狩りを楽しんだ思い出を持つ人は多いだろう。

30年以上にわたり市民に親しまれてきたぶどう園だったが、風害・雪害による葡萄樹の損傷や葡萄棚の倒壊に見舞われるなど運営は多難を極めた。平成6年に経営組合が解散し、平成7年にぶどう園の土地を市が譲り受けた。以降、葡萄栽培と新たにワインの開発・生産へと事業展開する「柏崎ぶどう村・ワイナリー」として再出発し、市の観光資源の一つとなっている。

日本の葡萄栽培は、文治2（1186）年に始まり、元和年間（1615～1624）に考案された葡萄棚をつくる日本独自の栽培法によって発展してきた。明治以降、ヨーロッパ系やアメリカ系の品種が多数導入されたが、ヨーロッパ系の品種は雨の多い日本の気候に適さなかったため、アメリカ系品種が現在の葡萄栽培の主流となっている。

葡萄は糖分が18～20%もあり、日本では柿とならぶ甘い果物である。果物は冷やすほど甘みを感じにくくなるが、糖度の高い葡萄は冷やしてもおいしく食べられる果物なのである。

参考資料

「図説 花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗篇	1996	「日本大百科全書」	小学館発行	1994
「ブドウの絵本」	たかはしくにあき編	2002	「苦闘のあと」	篠崎一雄 [等] 編	1997